

## 岩倉市 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央審議会より出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の答申では、ICT機器の活用により全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるとしている。本市においては、ICT機器の活用により、児童生徒がかかわり合い（協働的な学び）を大切にし、全員が安心して授業に参加できること、より質の高い学びを実現し、情報社会に主体的に対応できる情報活用能力を育成することを目指している。

### 2 GIGA第1期の総括

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、次のような実施率となった。

#### ①小学校において80%以上、中学校において50%以上の項目

	全国(小・中平均)	本市(小)	本市(中)
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか(ある・どちらかといえばあると回答)	93.0%	80.0%	50.0%
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか(ある・どちらかといえばあると回答)	86.8%	100.0%	100.0%
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(ほぼ毎日・週3回以上と回答)	92.0%	100.0%	100.0%
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか(ほぼ毎日・週3回以上と回答)	73.5%	80.0%	50.0%
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか(ほぼ毎日・週3回以上と回答)	43.1%	80.0%	50.0%
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか(ほぼ毎日・週3回以上と回答)	47.5%	80.0%	100.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか(持ち帰り利用ありと回答)	85.4%	80.0%	50.0%

②小学校において80%以上の項目

	全国(小・中平均)	本市(小)	本市(中)
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(ほぼ毎日・週3回以上と回答)	92.4%	100.0%	0.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援(活用があると回答)	74.7%	100.0%	0.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人児童生徒に対する学習活動等の支援(活用があると回答)	9.6%	80.0%	0.0%

③中学校において50%以上の項目

	全国(小・中平均)	本市(小)	本市(中)
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか(よく活用すると回答)	37.3%	40.0%	50.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか(1)不登校児童生徒に対する学習活動等の支援((65-2)の授業配信を含む)(活用があると回答)	63.1%	20.0%	50.0%

④小学校において40%以下、中学校において0%

	全国(小・中平均)	本市(小)	本市(中)
前年度に、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか(実施があると回答)	53.1%	40.0%	0.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか(2)希望する不登校児童生徒に対する授業配信(活用があると回答)	45.2%	20.0%	0.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか(6)児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援(活用があると回答)	28.8%	20.0%	0.0%
障害のある児童生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか(行ったと回答)	24.9%	40.0%	0.0%

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、上記のような実施率となった。令和6年度までの本市の成果としては、ICT支援員が全て学校に週1回訪問し、継続して個別の研修や相談を受ける機会が確保されていることが挙げられる。そのため、市内全ての学校において、授業でICT機器を進んで活用していることや、児童生徒一人ひとりに合わせた課題に取り組んでいることなどの成果も挙げられる。

一方、中学校では、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援や特別支援学級や外国人児童に対する学習活動等の支援での活用が見られない。また、小学校では、不登校児童に対する学習活動等の支援での活用頻度や保護者との連絡のやり取りでの活用頻度が低い傾向にある。それぞれ理由としては、小学校の低学年・中学年では不登校児童が一人でICT機器を利用することが難しい現状があることや、中学校では特別な支援を要する生徒や外国人生徒も関わりの中で学ぶ機会が多いことなどが、ICT機器の活用率が低い要因として考えられる。小中学校ともに肯定的な回答率が低い項目については、不登校児童生徒に対してや相談活動などはオンライン上ではなく、対面でのやり取りが効果的であると考えている現状がある。

活用率が低い項目については、ICT機器による個別最適な学習環境の提供や、オンライン上での良さと対面での良さの相乗効果が、児童生徒の成長につながることを、ICT機器をより効果的に活用している学校を参考に今後も推進していきたい。

### 3 1人1台端末の利活用方策

令和6年9月に教職員端末の整備・更新を行い、コンピュータ教室を廃止し、全教室にプロジェクターを導入するとともに、児童生徒の端末と統一するため、教職員の教育用端末にiPadを導入した。また、市内全小中学校へ毎週1回のICT支援員の訪問も継続していく。教職員のシステムは今後も5年毎に更新されるため、現場の意見や要望をヒアリングしながら児童生徒へ質の高い学びを提供できるよう適切な環境を構築に努める。

教職員の授業でのICT機器の活用の促進については、児童生徒の情報活用能力をさらに育成するために、情報活用能力カリキュラム表を配付し、各校の情報教育指導計画を見直していくよう進める。また、協働的な学びを深めていく手立てとして、ロイロノートやスクールライフノートなどのアプリの活用促進、自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において全校に取り入れたAIドリルを有効活用するための使用方法を検討する。

その他、活用割合の低かった、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援や、外国人児童生徒への支援については、文章の音声入力や、画像撮影、翻訳機能、音声教材の活用等により学習意欲が上がったことを各学校に紹介し、活用を促す。不登校児童生徒に対する学習活動等への支援では、本人の意向等を考慮しながら、学校内に限らず、学びの保証の支援を実施したり、児童生徒の心身の状況の把握、児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援したりすることについても今後、活用方法を検討する。今後も、岩倉市コンピュータ研究委員会を中心に、各学校の使用状況を共有し、より良い活用に向けて取り組んでいきたい。